

Wood Luckプロジェクト

みんなを笑顔に！持続可能な幸せサイクル！



萱澤 桜恭(かやざわ さゆき)
兵庫県立洲本実業高等学校 3年

阿部 夕花(あべ ゆうか)
兵庫県立洲本実業高等学校 3年

活動概要

活動の内容

獣害対策で伐採された間伐材(Wood)の利用方法を広げることで、みんなに幸せを運ぶ(Luck)プロジェクトです。10月21日と22日に兵庫県洲本市の「レトロなまち歩き」イベントに参加し、間伐材を使った鍵掛けボードや時計の販売とワークショップ、防災ベンチを使った防災食作りを実施しました。八木馬回集落や獣害について表記したパネルをブースに設置したり、活動案内のチラシを配布したりしました。また、11月22日に八木小学校の6年生を対象に、獣害のお話や八木馬回集落の獣害対策の視察、木製風鈴作り等の獣害学習を実施しました。

活動の特徴(新規性・発展性)

Wood Luckプロジェクトは、昨年度に立ち上げられたプロジェクトです。南あわじ市の八木馬回集落で活動されている方々の協力をいただきながら、私たちにできることを考えて取り組みました。「レトロなまち歩き」でのブース出展は継続し、新たなワークショップを行いました。また、私たちの次の世代にも地域の課題に目を向けてもらい、繋げていって欲しいという想いから小学校でのイベントを企画し、実施しました。

活動の成果

イベント後、私たちの活動に関心を持たれた方々から木材について問い合わせがありました。また、八木小学校で実施したアンケートでは、「もっと獣害について勉強したい」と前向きに考えてくれた児童が多かったです。1番の成果は、今まで獣害問題を知らなかった人、考えたことがなかった人、興味がなかった人にもどのような問題があるのかを知ってもらうことができたことです。

課題の設定と意図

淡路島の南あわじ市にある八木馬回集落では、集落と山の境界が近く、作物を育てる畑があるため猪や鹿による獣害が発生しています。昨年度は、獣害対策で見通しを良くするために伐採された八木馬回集落の間伐材を使用し、カッティングボードや防災ベンチの製作活動を行い、獣害について広める活動をしました。この活動を引き継ぐため、八木馬回集落を訪れ、柵と網、罠が設置されている場所見たり、住民の方に獣害や地域のお話を伺ったりしました。また、南あわじ市役所の方から獣害や南あわじ市の取り組みについて教えていただき、「私が考える『鳥獣対策』について」をテーマにディスカッションを行いました。ディスカッションでは、獣害対策や資源の活用に貢献するために、昨年度のように間伐材を使った商品開発を行うことで木材の活用方法を広げることや、柵や網以外の対策方法を考えて提案しました。また、獣害を広めるために地域の小学生へ獣害を伝える必要があるのではないかと考えました。八木馬回の方のお話で地域の良いところを知り、地域の豊かさを守っていくためには「八木馬回集落の獣害を少しでも減らすこと」が大切ではないかと考え、課題に設定しました。

課題解決のための仮説と計画

私たちは獣害対策で伐採された間伐材を活用すること、獣害について知ってもらうことが獣害を減らすことにつながると考えました。間伐材の活用は、昨年度も商品づくりでカッティングボードを製作していましたが、高価だったこともあり、思うように販売できませんでした。また、木工の加工をSODA(ソーシャルデザインセンター淡路)さんをお願いしており、来てくださった方から私たちが作った商品はないのかとお声を頂いたこともありました。そこで、価格を少し抑えて自分たちで商品を製作すれば、より多くの方に興味を持ってもらえるのではないかと考え、鍵掛けボードと木製風鈴を製作しました。また、販売に加えて体験をしてもらうことで、より多くの人に関心を持ってもらえるのではないかと考え、地元の方も多く来られる「レトロなまち歩き」でワークショップを行いました。

次に、獣害について知ってもらうためには、イベントを開催しようと考えました。今まで獣害について考える機会が少なかった若い世代に関心を持ってもらい、次の世代にも獣害対策への想いを繋げていって欲しいと考え、地元の小学校を対象にすることにしました。初めは、集落にて間伐材を使ったものづくりやジビエを食べる体験、獣害のお話などをするデイキャンプを企画しました。小学校に提案したところ、ジビエを食べる体験は命の大切さを学ぶ点として前向きな意見をいただきましたが、調理に時間がかかるという意見も出たため、ジビエに関しては変更することにしました。また、小学校の先生方からは現地で開催したいという要望があり、小学生に自分たちの目で柵や罠などの対策を見ることで、集落で実際に獣害が起こっているということを知ってもらえるように、集落の散策をすることにしました。間伐材の活用方法が広がり、次世代に獣害について関心を持ってもらうことができれば、活動が継承され、みんなを笑顔にできると考えました。

活動で工夫できたこと

この活動で私たちが工夫したことは、「獣害を少しでも減らす」ことを意識してそれぞれのイベントに取り組んできたことです。どのイベントでも、まず獣害を減らすために活動内容を知ってもらう必要があると考え、お客様に来ていただけるように工夫しました。公式インスタグラムにてイベントで販売する商品の製作過程やその説明、そして開催するイベントで何をやるのかなどを詳しく記載しました。また、レトロなまち歩きと商業フェアでは、イベントの様子をリアルタイムで投稿したり、会場で公式インスタグラムの紹介をしたりして、活動内容を知ってもらうことに努めました。これらを工夫したことにより、たくさんお客様に来ていただきました。そして、来て頂いた方々に八木馬回集落の紹介をしているパネルやWood Luckプロジェクトの活動内容を書いたパネルを使用して、私たちが何を目標に、どのような活動をしているのかを紹介しました。例えば、私たちが製作・販売した「鍵掛けボード」「木製風鈴『もぐりん』」を販売する際には「この商品は八木馬回集落の木材を使用して私たちが製作しました。八木馬回集落は南あわじ市に位置する獣害被害が多い集落で、そこでは獣害を減らすために山の木を伐採し、見通しを良くして獣が降りて来ないようにするという取り組みが行われています。そこで出た間伐材をどこかで活かさないかと考え、私たちはこのような商品を作りました。私たちの目標はこの八木馬回集落の獣害を少しでも減らすことです。よければこちらのパネルもご覧下さい。」と説明しました。また、八木小学校での出前授業では小学生が対象だったため、獣害に関するクイズを交えて楽しく、分かりやすい参加型の講話になるように工夫しました。これらのイベントを実施するまでには、木材の加工やパネルの作成、協力依頼など、必要な準備がたくさんありましたが、私たちの「最後までやりきる力」が活かせたと思います。



萱澤 桜恭

この活動を通して初めての経験をたくさんすることができました。私の住む場所は住宅街でこの『Wood Luckプロジェクト』に参加していなければ、自分の身近に獣害被害という悩みを抱えている地域があることなど知る余地もなかったと思います。実際その被害が起きている地域の小学生と交流を行った際、獣害について知っているかを問いかけたところほとんどの子達が「知らない」と答えました。身近にいる人ですらその現状を知らないということは、この地域の他にもこのような広まっていない状況があるのだと現状の深刻さに悩まされました。私は、自分たちにできることは何かと考え、まずは地元の方々にお話を伺い、獣害や地域についての知識を深めました。得た情報をもとにどのような活動を行けば獣害についてより良く知ってもらえるかを考え、様々なアイデアを出し合いました。その中で、獣害対策で木を伐採した際の間伐材を使い何かできることはないかとチームメンバーや先生方、木材に詳しい方など様々な人と話し合いました。誰もが手に取りたくくなるような。そしてプロジェクトが終わっても地元の方々が続けられるような商品を目指し、これまで様々な意見を交換し合いました。

商品を製作し、実際にイベントに参加する間で、普段授業を受けているだけでは絶対に学ぶことのできない経験をたくさんしました。例えば製作に協力していただく方への交渉や接客の仕方、商品の試作や活動を知ってもらうための資料作成などです。これらは活動の一部に過ぎません。これだけコミュニケーションを必要とされることや商品製作という一から何かを作るということを経験しなかったことで、プレッシャーを感じたとともに様々な考えを得ることができ良い刺激になったのではと思います。一番成長を感じられたのは、実際にイベントに参加し、様々な世代の人とコミュニケーションを取ることができたことです。初めて参加したイベントは家族連れが多く、子どもが苦手な私は積極的に声を掛けに行くことができませんでした。しかし、実践を積むごとにそれは変わりました。自分達の活動に興味ってくれる人が増え嬉しかったからです。もっと知ってほしいと思った私はアピールの仕方を考えるようになりました。子どもと話す際は簡単な言葉ではきはきと。年上の方と会話をする際は簡潔にかつ魅力になど双方ともに分かりやすく伝えるよう工夫しました。その結果、イベントでは立ち止まり話を聞いてくださる人が増えました。特に小学生と交流会を行った際は、笑顔で楽しみながら話を聞いてもらうことができても嬉しかったです。人前に立つことは今でも緊張しますが、たくさんの人に獣害について知ってもらえることがそれ以上に嬉しいです。将来看護師になろうと考えている私は、これから課題にぶつかることも多々あると思います。そんなときはこの経験を活かして問題点と向き合い探究をし、自分のできる最善策を考え行動に移して行きたいと思ひます。

阿部 夕花

私は今回の活動で沢山のことを学びました。淡路島で獣害被害が起きている事実を初めて知り、その問題をチームメンバーと向き合うことが出来ました。この企画に携わるまでは獣害というものに全く目を向けていませんでしたが、自ら獣害について調べたりと意見交流をしたり、被害にあっている地域の方と実際にお会いしたりするなど、獣害問題について考える度に私達が力になれることはないかと思えるようになりました。私が目を向けていない地域の課題はまだ沢山あると思います。例えば、放置竹林問題や空き家問題などが挙げられます。この活動を通してさらに視野を広くし、これらの様々な問題について興味や関心を持ちたいと思ひました。

また、企画立案を始め、商品開発や接客対応、販売実習などとても刺激的な活動ばかりでした。商品開発では、どの年齢層を狙ってニーズを満たすのか、魅力的な商品のデザインはどのようなものかなど慎重に考えながら活動を行いました。接客ではお客様の年齢層に合わせて対応を工夫しました。子どもには目線を合わせるためにしゃがんで話しかけ、簡単で分かりやすい言葉遣いを意識し、高齢者の方には優しく聞き取りやすい声の大きさを話すと傾聴、共感することを大事にしました。人それぞれ、その人に合った対応をしっかり見極め、いつでも臨機応変に行動することを心掛けるようになりました。

イベントを実施するにあたり、資料作成や獣害についての話、動画作成など工夫して取り組みました。看板やスライド作成では、私達の活動や商品、獣害についてより多くの方に興味を持ってもらうために、文字のフォントや大きさを工夫したり、子どもでも読みやすいように振り仮名を付けたりしました。獣害についての話では、自ら調べ学習をしたり、八木馬回集落の方の家を訪問し話を聞いたり、市役所の方と獣害について意見交換したりするなど情報を集めました。それらを自分達でまとめ、イベントを通して沢山のの人に伝えたことがとても嬉しかったです。また、八木小学校イベントでは、自分達で作った企画書を持参し小学校を訪問しました。企画内容を説明する時はとても緊張しましたが、真摯に話を聞いてもらい快く引き受けていただけて嬉しかったです。今後も活動で得た知識を活かしていきたいです。様々なイベントに参加しましたが企画を実施する上で人との関わりはとても大切だと改めて感じることができました。八木馬回集落の方を始め、八木小学校の先生や児童、南あわじ市の市役所の方々、レトロこみちの運営の方々など沢山のひとと出会い、関わり合いながら活動を進めていくことができました。やはり初対面の方と話した時は、緊張などで言葉遣いが上手いかわないこともありましたが、それでも相手の方は笑顔で言葉を返してくれ、私は凄く嬉しい気持ちになりました。沢山のひとと関わり、その人たちの地域への思いや願い、私達に対しての期待を感じることができました。それらの思いが私たちの自信や活動推進へと繋がり、このプロジェクトを成功させることができたのだと思ひます。

今回の体験を踏まえ、今後は人との関わりや繋がり、身の回りの課題を自ら見つけていきたいです。また、私は卒業後、淡路島を出て芸術大学に進学します。デザイン表現を中心に学ぶので、デザインを通して地域の課題や人々の気持ちを自分が作る作品で社会に発信していければなと思ひます。住む環境や人間関係も一から始めることに不安はありますが、この活動で得た勇気や自信を原動力に人生を過ごしていきたいです。



1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	近畿
---------	---	---------	------	------	----

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立淡路青少年交流の家	修了日	2022/8/26	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容					
実践活動期間	2023/4/19 ~ 2024/1/30				
活動のタイプ	発展的な活動				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	八木馬回清流の里会		獣害の現状をお話いただき、間伐材を提供して頂いた。	
	氏名	水田 泰善 様、堤 省司 様			
	所属	八木小学校		小学校でのイベントを引き受けていただいた。	
	氏名	八木小学校のみなさん			
	所属	城下町洲本再生委員会 会長			
氏名	野口 純子 様		洲本市のイベントでの出店を受け入れていただいた。		
協力者総数	20 名		協力団体数	6 団体	

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 22 日

事前:準備・打合せ	17 日	本番:メインの活動	3 日	事後:ふりかえり・報告	2 日
-----------	------	-----------	-----	-------------	-----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	3回以上	公式のInstagramアカウントでイベント当日の様子を公開した。
その他	自ら発信	2回	本校ホームページで、イベントの様子を掲載した。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
5/10 ~ 5/10	①事前学習・打合せ等	八木馬回集落	集落や森を視察し、地域住民のお話を伺うとともに協力を依頼した。
6/7 ~ 6/7	①事前学習・打合せ等	南あわじ市役所	農林振興課の方から南あわじ市の獣害被害の現状について学び、ディスカッションした。
10/21 ~ 10/22	②実践活動本番	洲本市公民館	イベントに出店し、間伐材を用いたワークショップとパッキングを行った。
11/18 ~ 11/18	②実践活動本番	須磨パティオ駅前広場	間伐材を用いたワークショップとパッキング、パネル展示を行った。
11/29 ~ 11/29	③事後打合せ・報告会等	本校	イベントの振り返りを行い、今後の活動についてディスカッションを行った。